3/6 県新

原発のテロ標的危険性を訴える

3・11前に福井で集会

県内の脱原発団体の共同企画「さよなら原発福井県集会2020inふくい」が五日、福井市のフェニックス・プラザで開かれた。東日本大震災から十一日で十一年となるのを前に「原発のない新しい福井へ」とテーマを掲げ、老朽化した原発の廃炉などを訴えた。

震災被災者への黙とうに続き、実行委の共同代表らが登壇。山本富士夫・福井大名誉教授は県内の原発がテロの標的となった時の危険性を示しつつ、「ロシアがウクライナの原発を占拠する動きに断じて反対しなければならない」と述べた。

全国の研究者らでつくる原子力市民委員会座長の大島堅一・龍谷大教授が講演し、原子力発電の比率を高める政府方針には無理があると指摘。「持続可能な社会構築に原子力は絶対に役に立たない」と述べた。

県内三カ所の公民館でライブ映像を視聴した人らを含め二百四十人が参加。集会後は実行委メンバーらが脱原発を求めて会場周辺をパレードした。

（浅井貴司）

脱原発を訴えてパレードする人たち＝福井市田原1で